

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800043		
法人名	社会福祉法人 とおの松寿会		
事業所名	グループホーム長寿庵		
所在地	岩手県遠野市材木町2-22		
自己評価作成日	平成27年10月8日	評価結果市町村受理日	平成28年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390800043-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの生活のペースを大切にしている所。 ・個々の利用者の状況や業務内容、外部評価等について、毎日夕方にミニカンファレンスを設けて、「職員みんな」で話し合い、職員間で共有する時間を作っていること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>遠野駅近くの住宅街にある当事業所は、建物の2階にある。建物の1階は、小規模多機能ホームとなっている。事業所は、小規模多機能と一体運営がなされており、街中に位置することを活かし、地域に呼びかけ地域行事の推進の一翼を担っている等、地域の拠点となっている。毎日、夕方の時間帯にミニカンファレンスを実施して、利用者の情報を職員間で共有している。開設当初から勤務している馴染みの職員が多く、職員と利用者との信頼関係が築かれている。地域や事業所の行事に参加をしていただくことを通して、利用者と家族との交流を図っている。また、カンファレンスの際にも家族に参加していただき、利用者のケアについて話し合われている。家族が事業所・地域に足を運んでいただくような雰囲気づくりをして家族との交流を積極的に支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長寿庵独自で理念を作成し、朝礼の際に職員間で唱和している。毎日の仕事の拠り所となっている。 4月の長寿庵全体会議で、経営の理念について施設長より説明がある。	基本方針(ミッション)に理念を掲げ、ミッションステートメント(職員の心構え)で、具体的な支援をしている。朝礼で毎日理念を唱和している。リビングの壁にも理念が掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町民運動会、入部行列、消防行事等遠野市内の行事に積極的に参加している。地域交流会にて、近隣住民と交流を図っている。 ・日常的な散歩を通して、近隣住民との交流、運営推進会議に地域の方々が参加し、地域の情報交換、意見交換を行っている。	事業所主催の交流会(地元名物のジンギスカンや歌、踊りなど)には多数の参加があった。子どもたちとも、餅つきや小正月の水木だんご作りを行っている。町内会の一員として町民運動会、入部行列(春の桜まつり)など市内の行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・毎月、認知症カフェで地域の方に認知症高齢者への接し方や日々の生活への相談援助、研修を企画・実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催、自治会長、利用者家族代表、介護支援専門員、市職員、消防職員等に委員を委嘱、小規模多機能の事業所と合わせて運営状況、日々の情報交換、意見・助言をいただいている。	運営推進会議は、小規模とグループホームが合同で開催している。会議の構成員として、小規模多機能利用者の家族が委員となっている。会議において委員から提案された「夏祭りの日程変更、避難用の滑り台の改善」等に取り組んでいる。	意見・要望を反映させるためにも、グループホームの家族を委員としてお願いすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で状況を伝えている	市の職員が運営推進会議委員として参加しており、情報交換が図られている。災害注意報・警報等が出ると安否確認の連絡がすぐ入る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内・事業所で研修を企画・実施している。法人内の指針の確認、マニュアルの確認の実施。事業所内に権利擁護推進員がいる。	権利擁護や身体拘束に関して、法人・事業所が主催して研修会を開催し、身体拘束をしないケアについて職員の共通認識を図っている。職員が利用者に暴言などをしないように、職員の目につくところに職員が気を付けたいポイントを書いた張り紙をしている。声かけや否定的な言葉遣いにも注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待の事例に該当する、事例はない。日常的なケア場面における、声かけ、プライバシーへの配慮、日々心がけながら対応を行っている。今年度も身体拘束廃止部会員が12月に研修を行う。 ・8月に外部講師を招いて法人全体で研修を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記の実施はないが、金銭や通帳・印鑑等の貴重品類の管理が困難になってきた方に対しては、ご家族と現状の報告や今後の対応について面会・相談の機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改正時、利用料金変更、要支援・介護認定の変更時等は、重要事項説明書で説明・同意を得ている。 契約時には、契約書を用いて、利用者及び、家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情受付担当、解決責任者を設置している。事業所内にも掲示、重要事項説明書でも明記している。外部(国保連)にも相談窓口を設けている。 1年に1回、法人全体で、苦情等報告会を企画・実施している。	職員は、利用者との日頃の会話を通して、また、傾聴ボランティアを介して意見・要望を聞いている。カンファレンスは、家族にも参加していただき、意見などを聞いている。好みの食事、理美容のための外出等、意見・要望を反映した支援に心がけている。家族から理美容を事業所内で欲しいとの希望がある時は、家族から業者に依頼していただき、出張理・美容を支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・1年に1回、全職員に対し、就業に対するアンケートを行っている。 月に1度、長寿庵会議で、全職員が話し合いを行う場を設けている。	毎年、全職員を対象に法人本部で就業に関するアンケート調査を実施している。法人間の人事異動、勤務内容などの要望が出され、可能な限りの改善が図られている。事業所内の破損箇所、危険箇所などの改善の提案も出て改善された例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	・介護職員の夜勤手当が増額している。 ・社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉主事等の各種資格手当が増額している。 ・福利厚生でソエルクラブに入会した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画内に研修計画があり、職員一人ひとりの研修状況を視える化している。今後、受講可能性がある研修の明確化を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・認知症カフェでの他施設との交流、合同での研修会の企画・実施(9月)している。 ・他のグループホームと職員の交換研修を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・実態調査場面において、利用者、家族の意向、不安感を確認している。また、既に、他のサービスを利用中の場合、サービス事業所や担当のケアマネジャーから利用中の様子を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・実態調査において、家族の本人への思いの聞き取り、家族自身の置かれている状態について確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・新規利用者の場合、まずは新しい環境、事業所に慣れることを優先しケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ひつまみ、焼き餅等郷土料理を、職員主導ではなく、利用者が行い、職員は「教わる立場」として関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や家族との外食、外泊、外出等を行っている。 ・家族の仕事(看護師、行政等)も踏まえながら、本人のケアや今後の支援について変更を行う場合は、意見をいただきながら、家族も本人を支えるチームの一人として関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人が以前通っていた理美容院を継続して、利用している。 ・行きつけの食堂に本人が希望したので、外食の支援を行った。	家族対応で利用前の理美容院へ今でも通っている方、行きつけの食堂で外食する方、利用前の近所の方の面会など関係が続いている。利用者個々の希望に応じ、馴染みの関係を継続した支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・全員に声かけを行い、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他事業所にサービス利用が変更になる際、利用者の日々の様子について、事業所内での情報提供内を行い、利用者本人へのケアを円滑に行えるようフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の好みの食事の聞き取りや嗜好品を確認しながら、外食行事を企画・実施している(8月18日実施) ・ミニカンファレンスで共有に努めている。	日常生活支援の中から意向を聴取し、毎日行うミニカンファレンス(16時30分～17時)で情報を共有している。本を読みたい、行事の外食のメニューなど利用者の思いを把握し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービス利用開始前に、大まかに把握を行うが、利用開始してから、家族の面会、家族参加のカンファレンス、本人から日常の介護場面で本人の過去の生活について確認を行うことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の状況については、富士データに記録を行い、健康状態の変化や生活中の普段との違いについては、ミニカンファレンスでの検討や申し送りをこまめに行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリングを行い、職員間で共有している。夕方のミーティング内で、個々の利用者に対しての情報交換を行っている。 ・家族にも連絡を行い、カンファレンスに参加していただけるよう、努力している。	家族からは面会時や、カンファレンスには必ず1回は参加してもらい、情報交換を行っている。併設施設の看護師からも医療面の情報提供を受け、3ヶ月に1回モニタリングを行い、介護計画を策定している。グループホーム主催の「家族との食事会」を毎年実施し、意見交換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・富士データに記録し、状況を把握している。また、3か月に1回はカンファレンスを実施、ミニカンファレンスで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・地域の理美容院の利用や薬屋、スーパーへの外出支援を行っている。自宅がある利用者については、郵便物、金銭の引き落とし等一緒に行っている。 ・本人の状態により、事業所に訪問理美容師を依頼し、カットをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の保育園から、利用者の為に、お遊戯や踊りの招待があり、利用者を楽しませてくれる。 ・1年に2回の避難訓練では、地域の方、消防署の協力を得て行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者一人一人の希望や状況を確認しながら、適切な医療をうけられるよう支援している	利用者全員が、利用前のかかりつけ医での受診である。受診は家族対応が原則であるが状況によっては職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・グループホームに看護師は配置されていないが、利用者の状態に変化があった場合には、併設の小規模多機能の看護職員に相談し、医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・今年度の入院者はゼロである。入院者が出た際は、情報提供を行い、入院中は利用者の様子を見に行き、随時カンファレンスにも参加している。 ・定期受診の際、医師への情報提供資料を作成・配布し、利用者の状況を確認できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・生前意思確認書で確認している。 ・看取りについて、隣の医師をお招きし、市内のグループホーム職員と一緒に研修会を実施した。	重度化及び看取り介護に関する指針を定めている他、協力医による研修を市内のグループホーム職員と一緒にしている。看取り介護については家族の同意と協力医の協力を得ながら、取り組む方向で話し合っている。	左記のとおり「指針」は作成しているが、事業所として「出来ること、出来ないこと」を整理して、対応を検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・各職員、2年に1回、心肺蘇生の講習を受講している。介護研修でも、現役の救急隊員を招き、緊急時の対応方法について研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域住民参加のもと1年に1回昼夜想定避難訓練を行っている。 ・6月に緊急連絡網の訓練を行った。 ・食料・水の備蓄を行っている。	日中、夜間(19時)の避難訓練に自治会長他、地域住民15名ほどの協力を得て、実施している。自治会では地震、大雨など災害の恐れがあるときに安否確認する担当者が決まっていて、すぐ駆けつけてくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシー保護の研修やマニュアルを見直し、周知し、日ごろから職員間で気を配りながら声をかけ合っている。	マニュアルを管理委員会で毎年、見直し・検討している。トイレ誘導の声掛け、部屋への入室時のノックなどプライバシー保護の研修を定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の日常的な動作や余暇活動等で本人に確認を行いながら、ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事・入浴時間帯は決まっているものの、余暇時間の使い方やレクリエーションへの参加は利用者一人ひとりにお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・地域的美容院に行き、カットをしていただいている方がいる。身体的な状況により、出向くことが難しい方は、訪問の美容師をお願いしている。 ・入浴時に本人に着替えを準備していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備の際、利用者に味見をしていただいている。 ・利用者によっては、他利用者分の下膳を手伝っていただいている。	食事の献立と調理は、職員が担当している。味付けも食べやすいものとなっている。昼食と夕食時には、職員と利用者が一緒に食卓を囲み、楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。窓の外には、利用者が皮むきをした干し柿が吊るされている。湯飲みは自分の好みのものを使用している。テーブル拭き、布巾をたたむことなど、利用者の出来る範囲で手伝ってもらっている。食器、お盆などはすべりづらいものを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・夜勤者から日勤者へ前日の水分摂取状況の申し送りがある。 ・お茶、コーヒー、os1、水分補給ゼリー、ココア等の本人の状態、嗜好に合わせて飲み物を提供している。 ・苦手な食べ物は、代替え品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている(ポリドントの使用、口腔ガーゼの使用等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日中については、利用者全員が、トイレにて排泄している。 ・失禁の状況や皮膚状態、季節を見ながら、リハビリパンツから布パンツに切り替えて対応している。 	<p>日中は全員トイレで排泄している。夜間は居室でポータブルトイレを使用する方も2~3名いる。食事前、おやつ前、休む前にはトイレ誘導の声掛けをしている。失敗時には、さりげなく対応し、羞恥心や不安をできるだけ軽くするように支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>飲み物に食物繊維(ファイバー)やオリゴを入れながら、排便の状況を確認している。また、下剤を使用している利用者も、排便が続けて確認された際には、下剤を中止し、自然排便を促している。</p>	/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や気分に合わせて無理をせず入浴している。入浴以外にも足浴の時間を設けている。 	<p>毎朝、バイタルチェック(血圧、体温、脈拍を記録)している。利用者は、週3回は入浴していただくようにしている(希望があれば毎日の入浴は可)。また、夕食前には全員で足浴をしている。異性による介助は承諾を得た方のみ行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の状況等確認しあいながら、居室で休んでいる。 ・本人から訴えがあった時等、声かけし、休んでいる。 	/	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が服薬している、一覧表を作成した。 ・バイタル測定等で変化のあった利用者は、併設の食規模多機能の看護職員と相談し、受診等につなげている。 	/	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の下ごしらえ、洗濯たみ等を声かけを行い、一緒に行っている。 ・ドライブや外食等にでかけている。 	/	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容院、郵便局、自宅等利用者から訴えがあったときは外出している。 	<p>散歩がしたい、理美容院へ行きたい、郵便局(年金受領等)、お墓参りがしたいなどの要望があり家族の協力を得ながら支援している。朝の散歩では、近くの運動公園等に出かけ、家族の協力得て利用者の自宅にも出かけている。いつも利用者の希望に沿った対応ができるように取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族の支援をいただきながら、お金の所持を支援している(1名) ・他利用者さんは、金銭管理が難しくなっているので、ご家族に金銭管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族が遠隔地(関東地方等)で暮らしている場合、本人と電話で話せるよう配慮している。プライバシーの観点から、事業所の携帯電話で話せるよう配慮を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングに写真を飾っている。 ・季節感を出すために、飾りつけ(七夕は短冊、クリスマスはツリー等)を行ったり、カレンダーを利用者と一緒に作っている。	リビング(食堂兼)には、ドライブした時の写真や、家族が面会に来た時の写真などが貼られている。併設の事業所と合同で、毎月1回(手品ボランティア訪問など)のレクリエーションを楽しんだり、季節ごとの「水木ダンゴ」、「つるし雛」、「七夕飾り」、「クリスマス・ツリー」を飾ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者同士でお話ができるように、リビングの席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人が使い慣れた寝具、時計やラジオ、筆筒等利用開始時に持参して頂き、グループホーム内でも継続して使っていただいている。	電動式ベット、パネルヒーター、エアコン、ポータブルトイレ(必要な方のみ)は備え付けである。寝具、タンス、テーブル、イスなど使い慣れた物を持参している。テレビも居室で見られるような設備となっているが、持込みしている利用者はいない。家族の写真や思い出の物も持ち込まれ利用者が居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月1回、設備点検を行っている。また、1年に1回は、危険箇所点検を行い、危険箇所の改善に努めている。トイレ、居室の場所が分かるように、張り紙を貼って、利用者がスムーズに行動できるように支援を行っている。		